

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名	近畿大学九州短期大学			設置者名	学校法人 近畿大学			
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成25年度)			
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員 就職者数
						実数	個別	
	保育科	70人	幼二種免	昭和41年度	61人	57人	0人	5人
	通信教育部 保育科	400人	幼二種免	昭和53年度	1,748人	1,561人	0人	215人
入学定員合計		470人	合計		1,809人	1,618人	0人	220人
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、平成26年4月1日現在の名称・定員である。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。							

教職課程実地視察大学に対する講評

実地視察日：平成26年11月12日（水）

実地視察大学：近畿大学九州短期大学

実地視察委員：宮崎英憲委員、佐々祐之委員

【全般的事項】

- 教員養成に関する教育課程及び教員組織について、教職課程認定基準等を満たしていない点があるので、制度を理解の上、速やかに是正すること。
- 教育課程について、「2.」で指摘するように、教育職員免許法施行規則及び教職課程認定基準等の観点から是正すべき点が確認されたため、その点については、速やかに是正すること。特に通信課程では、教職課程認定基準で必要とされる専任教員が不足しているため、速やかに適正化を図ること。

【個別事項】

1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

- 「子ども、保護者、同僚に愛され、信頼され、尊敬される保育者」という教員養成に対する理念・構想を示しているが、それを具現化するための教職課程に対する全学的な組織、教育課程及び教員組織をより一層充実させるように努めていただきたい。
- 教職課程は、教員免許状という資格を授与するための課程であることに鑑み、授業内容の扱いについては個々の教員に完全に委ねるのではなく、教職に関する全学組織で定められた教育課程の編成方針の下、内容の点検・検討ができるような体制・仕組みの構築が必要であるため、今後御検討いただきたい。

2. 教育課程（教職に関する科目及び教科に関する科目）、履修方法及びシラバスの状況

- 通学課程については、丁寧な実施が確認された。通信課程に関しては、実施体制等について今後大学としての在り方を再考していただきたい。
- 「教職に関する科目」について、教育職員免許法施行規則第6条第1項表に定める「各科目に含めることが必要な事項」が含まれているか否か、シラバスからは判断できない授業科目や、科目の趣旨に照らして適切でないと見受けられる授業科目があるため、法令で扱うこととしている内容は必ず扱うとともに、科目の趣旨に照らして適切な授業内容となるように内容を再度検討すること。なお、シラバスの記載内容及び記載方針を定め、法令に定める「各科目に含めることが必要な事項」が取り扱われているかどうかをシラバスの授業計画から確認出来るようにすること。

- 履修カリキュラムが適切にモデル化されていないため、各教科の指導法等の科目を教育実習前に履修できないように見受けられる。また、通学課程の教職実践演習が2年前期に配置されており、不適當であるため、配置を見直すこと。
- シラバスと様式第2号の科目名称が一致していないものが散見された。認定を受けた科目名で統一すること。
- 「各教科の指導法」に関する授業科目において、テキスト又は参考資料に幼稚園教育要領を定めること。
- 通信課程において、入学定員に対する専任教員数が不足しているため、教職課程認定基準4-1(3)に従い、至急、適正化を図ること。

3. 教育実習の取組状況

- 教育実習の受講資格について、教職課程に配置された科目の履修が定められていない。教育実習を有用なものとするためにも相当の授業科目を履修条件とするよう見直すこと。
- 通信課程については、貴学の学生としての位置付けをより明確化するよう、実習先の学校と連携し、大学が教育実習に関わる体制を構築するとともに、学生への適切な指導、公正な評価となるよう努めていただきたい。

4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

- 履修カルテと教職実践演習の関係を整理する中で、入学時からの教職指導の充実を図っていただきたい。また、通信課程についても、学生が教職について理解を深め、教職への適性について考察するとともに、各科目の履修等を通して、主体的に教員として必要な資質能力を統合・形成していくことができるように、教職課程の全期間を通じて、大学が計画的・組織的に指導する必要がある。このことを踏まえ、履修カルテを有効活用する仕組みについても、今後御検討いただきたい。

5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

- 通学課程において、大学の教員が学生を引率して参加しているボランティアもあることが確認された。これらの取組を今後も充実し、地元教育委員会・学校との連携・協働に努めていただきたい。

6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

- 教職関連図書・雑誌については、おおむね整備されている。教職を志す学生が、教育に関する最新の情報を入手することができるように、引き続き図書環境の充実に努めていただきたい。また、通信課程のスクーリングでは、教員によって使用するテキストが異なるため、その都度活用できるよう資料を掲示していただきたい。

7. その他特記事項

- 特になし。